科目名	国際政治史 A　　History of International Politics A						
科目担当者	千知岩 正継　　CHIJIIWA Masatsugu						
単位数	2	配当年次	2 年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	日本国内であれ国家間であれ、現在進行中の政治現象を把握・判断し、今後の政治を展望するには、理論や思想にくわえて歴史的な知識が必要になります。そこでこの授業では、現代の普遍的ないしグローバルな国際社会の成立とその変遷に関する歴史を振り返り、解説します。本授業では、16 世紀頃の主権国家体系の誕生から第二次世界大戦までの時代を対象とします。そのなかで、植民地主義や人種主義、国際機構の歴史などの重要な個別テーマも扱います。						
授業の到達目標	①　現代の国際政治の背景をなす歴史を理解できる。 ②　現在と過去の政治的出来事を結びつけて考えられるようになる						

授業計画・内容		
	1	授業の導入―国際政治史とは何か―
	2	近代主権国家体系の生成
	3	ユトレヒト講和と勢力均衡
	4	アメリカ独立革命
	5	フランス革命とナポレオン戦争
	6	勢力均衡とナショナリズム①―ウィーン体制
	7	勢力均衡とナショナリズム②―ビスマルク体制―
	8	帝国主義の時代
	9	国際関係の組織化の始まり
	10	第一次世界大戦の衝撃
	11	第一次世界大戦後の国際秩序①―ヴェルサイユ体制と連盟設立―
	12	第一次世界大戦後の国際秩序②―相対的安定期―
	13	国際秩序の崩壊―1930 年代の危機
	14	第二次世界大戦①
	15	第二次世界大戦②

授業外学修 (事前学修)	前回の配布プリントの再確認、テキストの指定箇所の熟読（毎週 1.5 時間程度）
授業外学修 (事後学修)	ノートの点検、配布プリントの設問の解答、テキストや参考文献の熟読、国内外の政治関連ニュースのチェック（毎週 2.5 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験 リフレクション・カード	70% 30%	①、② ①、②

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史―主権国家体系のあゆみ―』新版、有斐閣、2024 年。
参考文献	有賀貞『国際関係史―16 世紀から 1945 年まで―』東京大学出版会、2010 年。 佐々木雄太『国際政治史―世界戦争の時代から 21 世紀へ―』名古屋大学出版会、2011 年。 マーティン・ワイト　『パワー・ポリティクス』日本経済評論社、2025 年（大中真、佐藤誠、池田丈佑、千知岩正継、他訳）
その他	Moodle 上からのアナウンスで連絡をするのでメールの確認をしっかりすること。 この授業の続編にあたる「国際政治史 B」（後期）も履修することが望ましい。